

令和7年度第2回天童市総合教育会議

日 時 令和8年3月24日（火）
午前10時45分から
場 所 本庁舎3階会議室

次 第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議・調整事項
 - (1) 教育大綱に基づく令和8年度の教育方針について
 - (2) 教育委員会として今後重点的に講ずべき施策について
 - ・ 複式学級開設に伴う学校運営と教育委員会の支援について
- 4 閉会

令和8年度の教育方針

天童市教育委員会

1 深い学びにつながる知性を育む教育（「自立」）

～ 深く思考し、論理的に伝える力の向上を図る教育 ～

- (1) 自立した学びを育み学力の向上を図る。
各教科等で育成を目指す資質・能力を育むために授業改善を図り、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる教育を推進する。
- (2) 指導主事の指導訪問や伴走支援を積極的に推進し、教員の指導力の向上と学級経営の安定を図る。
- (3) 多様な情報を選択しながら学びに活用することで、言語能力、情報活用能力、課題解決能力の伸長を図る。

ICT機器の効果的活用と教育DXの推進

2 一人ひとりを大切にする教育（「共生」）

～ 学校生活の満足感や安心感を高め、一人一人のニーズに対応する教育 ～

- (1) 児童・生徒理解、個々の教育的ニーズに応じた教育の充実
特別支援教育の視点に立ち、学習や諸活動を推進する。
- (2) 全ての教育課程を通して、心身ともにたくましく子どもを育て、いじめや不登校等の未然防止と課題の解決を図る。
SSW、SC、別室学習(COCOLO)支援員等と連携した指導の一層の充実
- (3) 子どもが安心できる居場所づくりとひとり一人が周りに関わる力（ソーシャルスキル）の醸成を図る。

学級集団アセスメント（ハイパーQU）の実施と研修

3 人づくりの土壌を整える施策を推進（「創造」）

～ 地域、天童の学校としての充実等生涯にわたる教育の土壌を育む施策を確実に推進する ～

- (1) 地域を誇りに思い、地元で働くことを描く教育を推進する。
ひと・もの・こと活用事業や活力ある学校づくり推進事業、及び商工会議所の「地元企業PR事業」と連携したキャリア教育の推進
- (2) 学校施設の長寿命化及び安全で快適な学習環境の整備を推進する。
トイレ改修事業、照明設備LED化事業、熱中症予防対策事業及び熊出没に対する安全確保事業等の推進
- (3) 部活動の地域展開を推進し、生徒にとって望ましい芸術文化活動やスポーツの充実を図る。
市長部局との連携のもと、生涯にわたる活動につながるよう、組織的・計画的に地域展開を図る。
- (4) 市立図書館、各小中学校図書の実充実と読書活動の推進
市立図書館リノベーション事業の確実な推進と図書配備の実充実
- (5) 安全、安心でおいしい学校給食の提供と食育の実充実
安全・安心な給食食材の安定的な調達と衛生管理に努めるとともに、学校等と緊密に連携し、給食を活用した食育の実充実を図る。

複式学級開設に伴う学校運営と教育委員会の支援について

1 天童市の基本的な考え

全国的な傾向と同じく、天童市においても児童・生徒数の減少がみられ、郊外の小学校においては、令和8年度から複式学級の開設が想定される。天童市としては、複式学級が開設されたとしても、学校を地域のコミュニティの核として残していくことを基本的な考え方としながら、児童にとってより良い教育環境のあり方を今後、地域、保護者、学校と話し合いを重ねながら模索していきたいと考える。

2 複式学級の可能性がある小学校

複式学級とは…二つの学年を合わせて、16名以下（1年生が含まれている場合は8名）となると、二つの学年を合わせた学級編成となる。（公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律 による）

- (1)天童市立荒谷小学校 令和8年度 2・3年生が15名 →2・3年の複式学級に
令和12年度 1年0人、2年単式、3・4年、5・6年で複式学級
- (2)天童市立寺津小学校 令和9年度 2・3年生が15名 →2・3年の複式学級に
令和12年度 1・2年、3・4年、5・6年 完全複式学級

- (3)天童市立津山小学校 令和9年度 2・3年生が16名 →2・3年の複式学級に
以降、この学年の組み合わせで学年が上がっていく。令和13年度には再び単式に

※ 正式には3月末日の児童数により学級が確定する。今後、転入により児童数が増えれば解消される可能性もある。

3 保護者、地域との情報交換や懇談について

(1)学 校

保護者が来校するタイミングやお便りにて情報提供を行い、保護者の思いや考えをお聞きする機会を設ける。また、公民館の運営審議会、学校評議員会など、地域の方と関わる機会にも情報交換を行っていく。

(2)教育委員会

地域における懇談会を開催し、地域の方や保護者（今後就学予定の方を含む）の思いや考えを直接お聞きする機会を設けていく。また、それらの意見を参酌し、学校を支援する体制を整えていく。

【今年度開催の地域との懇談会】※R8年度も開催予定

◇荒谷地区（R7.12/2）10名参加

◇寺津地区（R8.2/19）28名参加

◇津山地区（R8.3/9）22名参加

広報の方法 ○保護者へ→学校からチラシの配布 ○地域へ→市報・公民館報・回覧板

4 教育委員会の支援について

(1) 人的支援

- ① 田麦野小学校以来の複式学級開設であり、市内には複式学級における学習指導経験のある教員が少ないため、経験のある教員を配置いただけるよう県教育委員会に依頼
- ② 教員免許を所有し、学校で子どもたちに学習指導を行った経験のある方を「複式学級支援員(市会計年度任用職員)」として任用し、担任の指導の補助にあたる

(2) 先進校の視察

- ・山形市立大曾根小学校、尾花沢市立常盤小学校等の視察を校長と一緒にいき、学校運営への理解を深め方向性を共有した。

(3) 物的支援

- ・複式学級の開設に伴い、必要となる物品等の購入・設置(側面黒板の設置、異動黒板2台)

5 各地区における懇談会で出された質問や意見

(1) 複式学級に関わって

- ・指導方法について(全ての地区から)
- ・修学旅行等の行事の行い方について(荒谷・寺津)
- ・2・3年生の複式で、先生がいないと集中できなくなるか(津山)
- ・複式になることで、精神的な部分で不安になり不登校になるなどはないか(寺津)

(2) 学校の統廃合や学区について

- ・複式学級になると、統廃合になるような考えはあるのか(寺津)
- ・特認校にするなどの考えはあるのか(寺津)
- ・学区を見直す考えはないか。将来統廃合を見込んでいるのであれば、それを見込んだ上で中学校までの学区割を変更すれば、違った取り組みも考えられるのではないか(津山)
- ・津山地区は天童温泉も含んでいる。そう考えると、津山小学校に温泉地区も入れるべきだと思うが、それができない理由はあるのか(津山)
- ・コミュニティが大事だという話があったが、10年後こうしていくという方針を市が示せば、それに向かって新しいコミュニティを作っていくこともできるのではないか(津山)